

5歳児 2期「七夕の飾りを作ろう」

令和4年6月29日（水）
13：00～14：00
いるか組 26名
会 場 遊戯室
担 任 森山 寛子

1 幼児の実態

遊びや生活に関すること

- 前日の遊びの続きをすることや友達と関わることに期待をもって登園し、親しみをもった友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。
- 室内では、イメージした場や物を作って遊ぶことを楽しんでいる。友達と関わることを楽しんでいるが、互いの動きやイメージが異なっていて、遊びが進まないことも多い。
- 戸外や遊戯室では、鬼遊びやドッジボールなどのルールのある遊びを自分たちでラインを引くなどの準備をして遊び始めている。いろいろな幼児が仲間に入り、一緒に遊びを楽しんでいる。自分の都合のよいように進めようとする幼児や、思い通りにならないと遊びを抜けてしまう幼児の姿もあり、遊びが続かなくなってしまう場面もある。
- めうちや金槌など、年長組になってから使うことができるようになった新しい道具や用具に関心をもっている。積極的に使おうとしている幼児が多い。慣れない道具をうまく扱えないことで諦めてしまったり、教師に助けを求めたりする幼児も数名いる。
- 進級当初は係の仕事や誕生会の司会など年長組としての活動を自分たちのこととして意識をもちきれない姿が見られたが、活動を重ねるうちに自信をもち、意欲的に取り組むようになってきた。

研究主題に関すること

- 思いや考えを伝えることについては、個人差が大きい。自分の思いを強く主張する幼児がいる一方で、自分の思いや考えはもっているが友達に言葉で伝えることが少ない幼児や、どのように思いを言葉で伝えたらよいのか分からず戸惑っている幼児がいる。グループでの話し合いでは、思いを主張する幼児に対して自分の考えを伝えられなかったり、他児が考えを出すのを待っていたりする幼児が多く、話し合いが進まないことが多かった。一人ひとりの思いの出し方を丁寧に見ていく必要がある。
- 遊びや係の活動などで身近な物を数えたり、数字や文字を書いたりする経験をしている。保育室の椅子を何脚までなら安全に積むことができるか実際にやってみたり、収穫したソラマメの数を数えたり、遊びや活動の中で実体験から、文字や数字への関心を広げている。
- 保育室で飼育している生き物（メダカ・ダンゴムシ・オタマジャクシなど）や自分たちで育てている野菜に関心をもっている。継続して世話をしたり、「ななはけラボ」にある図鑑で栽培方法を調べたりしていた。
- 欠席などの理由で幼児の経験に差がある。

2 期のねらい

- 思ったことや考えたことを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら、遊びを進める楽しさを感じる。
- 自分なりにめあてをもって、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。
- 初夏の季節の変化に気づき、身近な自然に触れるなかで、試したり考えたりしながら遊ぶことを楽しむ。

3 活動と研究主題との関連

期のねらいとの関わり

3～4人の友達と思ったことや考えたことを伝え合ったり、考えを受け入れたりしながら、自ら環境に関わって活動できるような環境の構成や教師の援助を工夫する。

4 主題に迫る手だて

(1) 自分の思いを自分なりの言葉で伝える活動…【AH・AL・AR】

～少人数のグループの友達との共同的な活動を通して～

3～4人でのグループの中で自分の思いを自分なりの言葉で伝え、思いや考えを出し合うことができる分かりやすい活動を取り入れる。工夫や考えをグループの友達に伝えていくことができるよう思いを受け止めて言葉にしたり、思いが食い違ったときには話し合いに必要なポイントを整理したりして援助する。少人数で思いを出し合う経験を十分に重ね、3期以降に6～7人や学級全体で思いを出し合ったり、友達の思いを聞いたり受け入れたりしながら遊びや活動を進める姿につながってほしい。

(2) 数量や図形に親しむ活動…【CA・CD・CF・CK・CM・CO】

～遊びや生活の中で数や量、形に触れる経験を通して～

細長い折り紙を組み合わせて輪つなぎを制作する。一人ひとり製作してから最後につなげる、1つの輪つなぎをみんなでつなげるなど、組み合わせ方を考えながら取り組むことができるようにする。長さや個数などに興味をもった姿を受け止め、数えたり比べたりする場や時間を保障し、興味を広げていくようにする。

(3) 季節の行事や地域の施設・自然に親しむをもつ活動…【EA・EC・EG・EJ・EM・EV】

～季節ならではの行事を楽しむことや地域の施設との関わりを通して～

季節の行事に関心を持ち、飾りの製作に取り組めるよう、七夕の由来や飾りの意味を絵本や写真などを活用して分かりやすく知らせる。笹は地域の荒川自然公園のものであることを伝え、遠足で行ったことを思い出し、地域の施設や自然に気持ちを向けられるようにする。

(4) 小学校との関わり

～交流活動や、「ななはけラボ」での経験を活動につなげる～

進級当初より「ななはけラボ」に学級で行く機会を作り、遊具で遊んだり、図鑑で調べたりすることを通して、場に親しむをもてるようにする。小学生の制作している七夕飾りを見て、自分たちも作ってみたいという気持ちをもてるようにする。

5 これまでの経験

(1) 文字・言葉に関すること…【AH・AK・AL・AR・AS】

【親しみをもった友達やグループの友達と少人数で考えを出し合う経験】

少人数の友達と思いを出し合う経験を積み重ねられる遊びや活動を取り入れた。

① 2～3人で思いを出し合う

○好きな遊びでのごっこ遊び…色水のジュース屋さんごっこや映画館ごっこなど、同じ遊びをしたい友達同士で遊びに必要な物を考える中で、思いを出し合っていた。

○仲良しジャンケン・グループバスケット（集団遊び）…偶発的にできた2～3人の友達と、ジャンケンで出すものやグループ名を決める遊びを繰り返し楽しんだ。話し合う選択肢が分かりやすかったことで、普段考えを出すことが少ない幼児もいろいろな友達に対して考えを言葉にする経験をすることができた。

② 3～4人で思いを出し合う（意図的なグループでの活動）

○当番活動・誕生会の司会…進級当初は自分たちの活動として意識をもちきれず、仕事の分担など教師に頼ることが多かった。経験を重ねる中で自信をもち、5月上旬頃から、友達同士で声を掛け合いながら進めるようになってきた。

○グループ名決め…「幼稚園の生き物」というテーマで話し合ったが、思いを言葉に

する幼児が少なかった。一人ひとり思いを出すことができるよう言葉を掛け、友達との橋渡しをすると、思いを言葉にする姿が見られた。

○鯉のぼり製作…鯉のぼりの色・うろこの形を話し合った。それぞれの選択肢4つを絵で示した紙を用意したことで、その紙を手掛かりに、自分の好きな色や形が描いてあるところを指で指したり言葉にしたりして思いを出していた。

(2) 数量・図形に関すること…【CA・CD・CK・CM・CO】

【遊びや生活の中で数・量・形に触れる経験】

生活や遊びの中で数や量、形に興味をもった姿を捉え、興味や関心を広げていくことができる環境の構成や援助を工夫した。

○保育室の環境を作る（遊具の配置や椅子の置き方を考える）…椅子を安全に何脚まで積むことができるか数える、中型積み木の置き場が分かるように形をとってテープで線を引くなど、数を数えたり形に触れたりしていた。家庭から持ってきた空き箱を大きさ別に分別することに進級当初は戸惑っていたが、現在は自分の感覚や他の箱との比較で、大きさや形ごとに楽しみながら箱を分別している。

○大型積み木・巧技台を使った遊び…構成の仕方を考えて並べたり積んだりしていた。「四角いの」「大きい積み木」など、形や大きさを言葉にして表現している。

○野菜の収穫…ソラマメのプランターの横に場（シートや小さい机など）を設定すると、幼児なりに並べたり数えたり、大きさを比べたりすることを楽しんでいた。

(3) 自然（生活）に関すること…【EB・EC・EG・EJ・EV・ER・EW】

【自然の変化に関心をもち、関わる経験】

春や初夏の自然に自ら関わり、興味をもって触れたり、「ななはけラボ」も活用して調べたりする姿を支える環境の構成や言葉掛けを行った。

○春の自然を取り入れた遊び…草花の色水作りやタンポポの綿毛飛ばしなどの遊びに興味をもって楽しんでいた。

○こどもの日など季節の行事を扱った。

○夏野菜の苗植え…春に育つ野菜（タマネギ・イチゴ・ソラマメ）の収穫後に、夏に育つ野菜を「ななはけラボ」も活用して調べ、植えた。季節によって育つ野菜が違うことを初めて知った幼児が多かった。

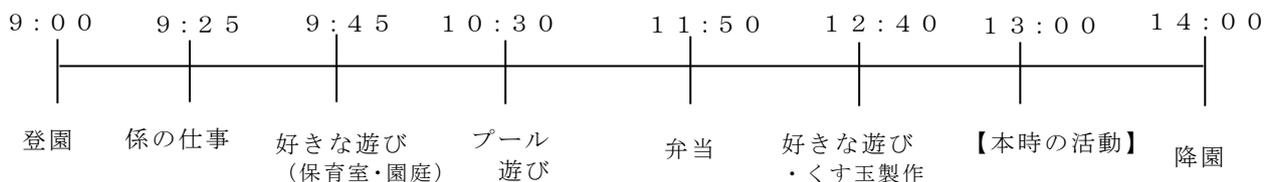
○園庭や小学校ビオトープの生き物の観察（ダンゴムシ・オタマジャクシ）…見つけた生き物を保育室で飼育する環境を整えたことで、継続して観察したり世話をしたりしていた。ダンゴムシの家を空き箱で作るなど、愛着をもっていた。

6 本時の活動に関わる経験

経験の内容	●活動 ◇幼児の姿	☆環境の構成 ※教師の援助の工夫
<p>「ななはけラボ」や1年生の教室に行き、小学生が製作した七夕飾りに触れる</p> <p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">6月3週</p>	<p>●「ななはけラボ」や教室に飾ってある小学生が作っている飾りを見た。</p> <p>◇小学生の切り紙の飾りを見て、自分たちも作ってみようとしていた。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>☆作成中の小学生の作品を「ななはけラボ」に展示しておく。</p> <p>※進級当初より計画的に「ななはけラボ」に行き、場に親しみをもてるようにする。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>『ななはけラボ』は楽しいことがいっぱい！小学校の先生とも一緒に遊んだよ。」</p> </div>

<p>七夕飾りを製作する (個別の活動)</p> <p style="text-align: right;">6月3週～</p>	<p>●七夕の由来を知り、興味をもって製作した。</p> <p>◇飾りに意味が込められていることを知り、自分なりに考えたり工夫したりしながら製作していた。</p> <p>◇友達と工夫したところを伝え合ったり、作品を見て刺激を受けたりしていた。</p>  <p>◇めうちなど、新しい道具を使った活動にも積極的に挑戦していた。</p>	<p>※七夕の由来や飾りの意味を絵本や写真などで知らせ、興味をもてるようにする。</p> <p>☆材料や素材を十分に用意し、選び取ったり、試したり工夫したりしながら作り進められるようにする。</p> <p>※新しい技法や用具も取り入れる。(切り紙・めうち・彩液・霧吹きを使ったにじみ絵)</p>  <p>※内容やねらいによって、個別に好きな遊びの中で製作する、学級全体で製作するなど活動の方法を考える。</p>
<p>七夕飾りを製作する (グループの友達との活動)</p> <p style="text-align: right;">本時</p>	<p>●グループの友達と輪つなぎを製作した。</p>	<p>本時の展開案参照</p>
<p>運動会や保育参観に向けての活動で、6～7人・学級全体で思いを出し合う</p> <p style="text-align: right;">3期以降</p>	<p>●9月には運動会のリレーやリズムの話合い、1月にはお店屋さんごっこの話合いなどで自分の思いを出す。</p> <p>◇リレーの順番や作戦を同じチームの友達と話し合った。</p>	<p>☆運動会のリレーでは同じチームの友達が分かる名前を書いたボードを用意するなど、視覚的に話合いを進めやすくなる道具を用意する。</p> <p>※多い人数の中でも思いを出し合えるよう引き続き一人ひとりの思いの出し方を丁寧に見ていく。</p>

7 一日の流れ



8 本時の活動

(1) ねらい

○3～4人の友達と思ったことや考えたことを伝え合ったり、考えを受け入れたりしながら、七夕飾りを製作する。

(2) 本時の様子

時刻	●活動 ◇幼児の姿	☆環境の構成 ※教師の援助
13:00	<p>1 集合する。</p> <p>2 教師の話を書く。</p> <p>◇公園の人から手紙が届いたことを知り、嬉しそうに聞く。「大きな笹」という言葉に「どのくらいだろうね。」「先生より大きい」「地球ぐらい。」とそれぞれが想像したことを言葉に出して伝えている。</p>	<p>※活動に期待がもてるよう、手紙を箱の中に入れておく。</p> <p>☆声が聞こえやすくしたり、手紙を見やすくしたりするため、前方に集まる場を設定する。</p>
13:05	<p>●輪つなぎの作り方を考える</p> <p>◇「同じ色で作りたい」「いろいろな色で作りたい」「長くしたい」など思ったことを言葉に出している。</p>	
13:10	<p>3 活動の準備をする。</p> <p>●グループごとに机に集まる。</p> <p>●のりを受け取る。</p> <p>●材料（紙）を選ぶ。</p> 	<p>※5月に公園で見学した笹を思い出し、どのような笹が届くかをイメージし、グループの友達と一緒にどのような飾りを作りたいかを考えられるよう問い掛ける。箱の中に材料が入っていることを伝え、期待を高める。</p>
	<p>◇A児「虹色にしたいな」とつぶやく。</p> <p>◇それを聞いていた同じグループのB児は、他児が取る色を見ながら異なる色を選んでいる。</p>	<p>※材料を提示し、以前に製作した経験を思い出せるように話す。</p> <p>※必要な紙をグループごとに取りに来るよう伝える。</p> <p>☆色や枚数はグループの友達と考えて選び取ることができるよう、机の近くの取りに来やすい場所に紙を用意しておく。</p> <p>※一人ひとりの思いの出し方をよく見ていく。思いを言葉にすることが難しい幼児には「〇〇さんはどう思うかな」など安心して思いを出すことができるような言葉を掛けたり、言葉を補って橋渡しをしたりする。思いを主張することが多い幼児には他児の動きや考えのよさに気付くような言葉を掛ける。</p>
13:35	<p>4 輪つなぎを製作する。</p> <p>◇「どうやってつなげる?」「いろいろな色を使おう。」などと言いながら作り出す幼児、自分の作りたいように作り始める幼児などの姿が見られる。</p> <p>◇言葉は交わしていなくても、作りながら友達の様子を見て同じ動き</p>	

をしたり、一緒に動いたりしている。

- ◇輪つなぎが少し長くなってきて、2人でつなげてみる。
- ◇A児が「2人でやると邪魔になっちゃうから、最後につなげよう」とグループの幼児に話す。他児は頷きながら、製作を進める。
- ◇教師の声掛けを聞いて、C児が「つなげる？」と隣のD児に話す。D児は「いいよ。」と答えると、一緒につなぎ合わせ、つなると笑顔を見せる。
- ◇他グループの様子を見てつなぎ合わせようとする。
- ◇グループの友達だけではなく、他のグループともつなげてみたいと言う。作ったものをつなぎ合わせる。
- ◇その様子を見ていた2つのグループも、他児の動きを見たり教師の声掛けを聞いたりして、幼児同士で話しながら、つなぎ合わせる。

- ◇一人で製作し続けていた幼児は、教師の声掛けを聞き、最後に端へつなぎ合わせる。

13:45

5 製作した輪つなぎを見合う。

- 机を片付けて集合する。
- 工夫したところや気付いたことを伝え合う。
- ◇「長い飾りができた」「赤と青を混ぜた」「合体して作った」「紫と水色を合わせて作ったから楽しかった」など感じたことを言葉で伝えている。
- ◇E児が「クラスみんなでつなげたい」と発言する。E児の考えに他児が「いいね!」と賛成する。
- ◇全グループの輪つなぎがつながると歓声上がる。

※グループの友達と輪をつなげる動きを周囲のグループに知らせ、互いが刺激し合えるようにする。

※広い床でも製作できることを伝え、友達と一緒につなげることができる場を保障する。

☆床で製作する幼児に向けて、のり下紙を用意する。



※幼児から出た提案を受け止め、他のグループともつなぎ合わせてもよいことを伝える。

※それぞれのグループの取組の様子を見て、長さや輪の個数、色の組み合わせなどいろいろなことに興味をもったり、工夫したりしている姿を言葉にして認め、他の幼児に広げていく。

※輪つなぎがグループで1つになる楽しさに気付けるよう言葉を掛け、試してみたり、友達に考えを伝えたりする時間を保障する。

※つなぎ方に戸惑っているときは、必要に応じて、他のグループの動きに気付けるような言葉を掛ける。

☆製作したものを見合い、思ったことを伝え合いやすいよう、椅子で集合する。



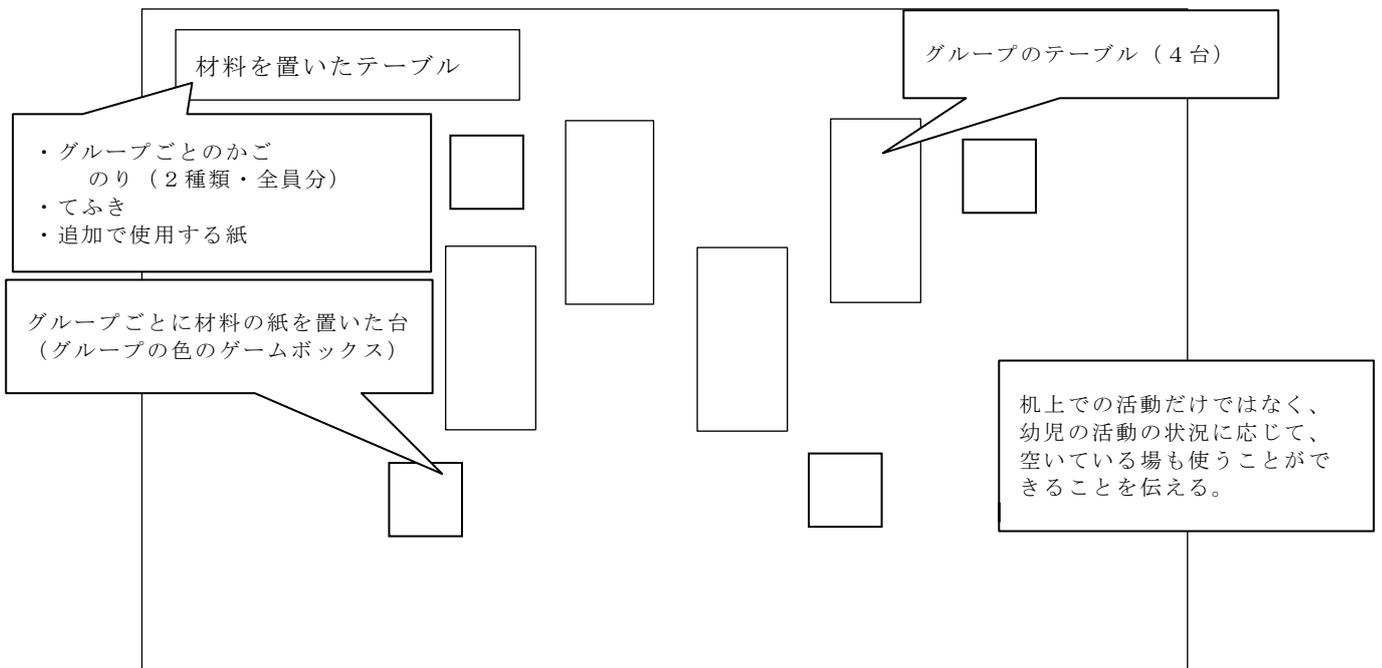
※グループごとに長さや個数、色の組み合わせなど工夫したことや気付いたことを伝え合えるようにし、興味に合わせて関心を広げられるようにする。

※幼児の気持ちに共感し、全員の前で提案する場を作る。言葉を補って他児に伝わるよう援助する。

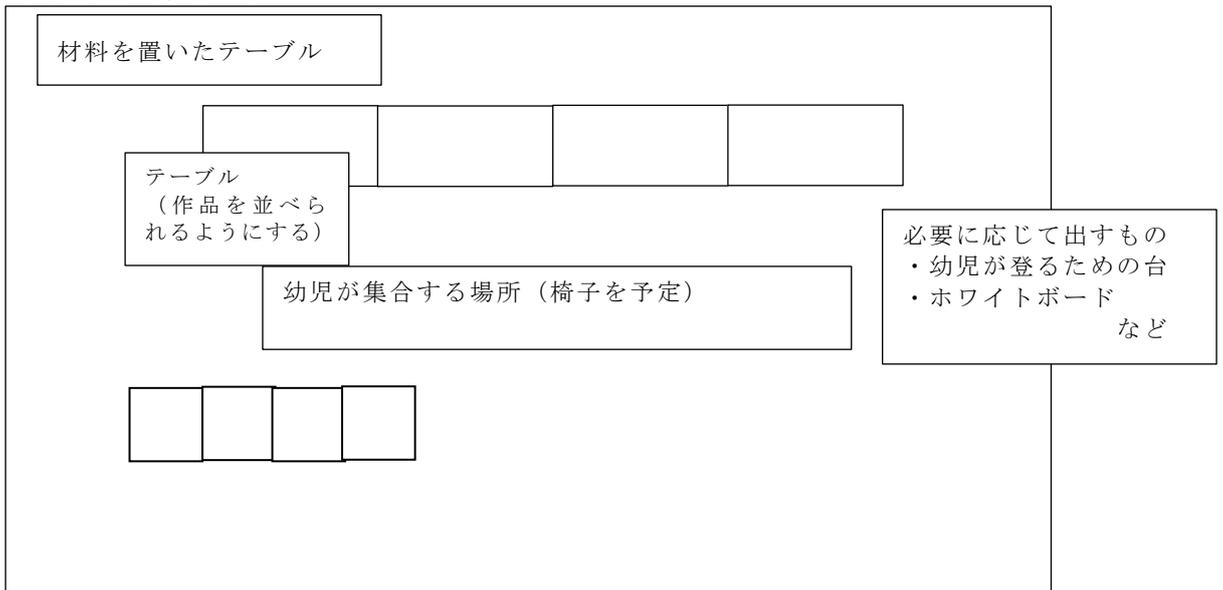
<p>14:00</p>	<p>●保育室に戻って降園準備をする</p> <p>7 帰りの集まりをする。</p> <p>●1日の振り返りをする</p> <p>●絵本「たなばたバス」を見る</p> <p>8 降園する。</p>	<p>※幼児の気持ちに寄り添い、達成感が味わえるよう声掛けをする。</p> <p>※作品は笹に飾り付ける日まで続きを製作できることを伝え、翌日以降の遊びや活動につなげる。</p> <p>※活動を振り返り、七夕や翌日の飾り製作などの活動に期待をつなげる。</p>
--------------	--	--

(3) 環境図

(遊戯室：製作時)



(遊戯室：集合時)



9 評価の観点

<幼児>◇グループの友達と思ったことや考えたことを伝え合ったり、考えを受け入れたりしながら楽しく七夕飾りを製作することができていたか。

<教師>◇3～4人の友達と思ったことや考えたことを伝え合ったり、考えを受け入れたりしながら、自ら環境に関わって活動できるような環境の構成や援助ができていたか。

◇製作した飾りの長さや輪の個数、色の組み合わせなどに興味をもった幼児の姿を受け止め、関心を広げる援助ができていたか。

10 協議会記録

(1) 研究協議

◇一人ひとりでの製作から、友達との言葉でのやり取りが生まれ、グループの友達と輪をつなげる動きが出てきた。(幼)

◇思いの出し方には個人差が大きかった。伝えたいという思いを大切に、言葉にして相手に伝えるためのきっかけ作りや具体的な言葉を補ったり橋渡しをしたりするなどの援助を積み重ねていく必要がある。(幼)

◇幼稚園教諭・小学校教諭が共に活動の場を見ながら幼児の興味・関心を広げられるような環境を検討することは、環境の重要性を共有することにつながった。(幼)

◇幼稚園児ならではの言葉で思いや考えを伝えたり互いの発言を受け止めたりしていた。一人ひとりがどんな工夫をしたかを発言したり、友達の良いところを伝え合ったりする援助ができたなら良かった。(小)

◇輪つなぎを長くつなげることに子どもたちの気持ちが向かっていたが、色や個数など様々な観点到らげていくための指導を考えていく必要がある。(小)

◇自分たちで椅子を片付けたり、場を移動したりして、環境を幼児自身が作っていくことがスムーズにできていると感じた。(小)

(2) 指導講評

◇直接的な言葉でのやり取りだけではなく、相手の動きを見て受け止めたり、認めたり、刺激を受けたりといった言葉を介さないやり取りが多く見られた。友達の行動を見て紙の色を相手の姿を受け止めて考えて動く姿は、大きな意味で「伝え合い」と考えられる。

◇保育や授業のねらいによって、幼稚園・小学校ともに個別での活動、グループでの活動、集団での活動など様々な方法がある。グループの人数や作り方(人間関係を考慮したグループ・やりたいことの目的が同じ者同士のグループ・偶発的なグループなど)に様々な形態があり、ねらいやめあてを明確にして丁寧に考えていく必要がある。

◇つなげた輪つなぎが机からはみ出したことで長くなったことを実感したり、端から端までを走ってみて長さを体感したりしている幼児の姿があった。実際に動きながら体で長さや大きさを感じ取っていた。

◇小学校では思いを言語化して相手に伝える機会が多くなる。幼児期に自分の思いをもつこと、友達の思いに触れたり気付いたりする経験を重ねることが大切ではないか。